

総合人間科学 倫 理 学

1 構 成 員

	平成19年3月31日現在
教教授	1人
助教授	0人
講師（うち病院籍）	0人（ 0人）
助手（うち病院籍）	0人（ 0人）
医員	0人
研修医	0人
特別研究員	0人
大学院学生（うち他講座から）	0人（ 0人）
研究生	0人
外国人客員研究員	0人
技術職員（教務職員を含む）	0人
その他（技術補佐員等）	0人
合 計	1人

2 教員の異動状況

森下 直貴（教授）（H14. 11～現職）

3 研究業績

数字は小数2位まで。

	平成18年度
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	1編（ 1編）
そのインパクトファクターの合計	0
(2) 論文形式のプロシーディングズ数	1編
(3) 総説数（うち邦文のもの）	1編（ 1編）
そのインパクトファクターの合計	0
(4) 著書数（うち邦文のもの）	1編（ 1編）
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	0編（ 0編）
そのインパクトファクターの合計	0

(1) 原著論文（当該教室所属の者に下線）

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1.

インパクトファクターの小計 [0.00]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1.

インパクトファクターの小計 [0.00]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. 長尾式子, 森下直貴ほか：日本の卒後臨床研修における倫理教育の現状. 医学教育：37(4)：215-220, 2006.

インパクトファクターの小計 [0.00]

(2) 論文形式のプロシーディングズ

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 森下直貴：終末期医療の倫理：ロールズでもブーバーでもない語り方. 唯物論研究協会・分科会シンポジウム報告, 2006. 10.22

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1.

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1.

(3) 総 説

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 森下直貴：インドへの旅, そしてインドからの旅. 浜松医科大学NEWSLETTER:33(2)：34-37, 2007. 3.

インパクトファクターの小計 [0.00]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1.

インパクトファクターの小計 [0.00]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1.

インパクトファクターの小計 [0.00]

(4) 著 書

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1.

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1.

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. 翻訳刊行委員会（編）『生命倫理百科事典』（全5巻）:3373頁，丸善，2007.1

(5) 症例報告

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1.

インパクトファクターの小計 [0.00]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1.

インパクトファクターの小計 [0.00]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1.

インパクトファクターの小計 [0.00]

4 特許等の出願状況

	平成18年度
特許取得数（出願中含む）	0件

1.

5 医学研究費取得状況

	平成18年度
(1) 文部科学省科学研究費	1件（150万円）
(2) 厚生科学研究費	0件（0万円）
(3) 他政府機関による研究助成	0件（0万円）
(4) 財団助成金	0件（0万円）
(5) 受託研究または共同研究	0件（0万円）
(6) 奨学寄附金その他（民間より）	0件（0万円）

(1) 文部科学省科学研究費

森下直貴（代表者）基盤研究（C）生命操作時代における「責任意識」と「規範形成」の感情論的研究 3カ年計画（300万円）の初年度（新規）

- (2) 厚生科学研究費
- (3) 他政府機関による研究助成
- (4) 財団助成金
- (5) 受託研究または共同研究

6 特定研究などの大型プロジェクトの代表，総括

1.

7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0件	0件
(2) シンポジウム発表数	0件	1件
(3) 学会座長回数	0件	0件
(4) 学会開催回数	0件	0件
(5) 学会役員等回数	0件	2件
(6) 一般演題発表数	0件	

(1) 国際学会等開催・参加

- 1) 国際学会・会議等の開催
- 2) 国際学会・会議等における基調講演・招待講演
- 3) 国際学会・会議等でのシンポジウム発表
- 4) 国際学会・会議等での座長
- 5) 一般発表
口頭発表

ポスター発表

(2) 国内学会の開催・参加

- 1) 主催した学会名

2) 学会における特別講演・招待講演

3) シンポジウム発表

森下直貴：終末期医療をめぐる倫理，第29回唯物論研究協会，静岡大学，2006.10

4) 座長をした学会名

(3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

森下直貴 日本医学哲学・倫理学会 理事

森下直貴 日本生命倫理学会 評議員

8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数（レフリース数は除く）	0件	0件

(1) 国内の英文雑誌の編集

(2) 外国の学術雑誌の編集

(3) 国内外の英文雑誌のレフリース

9 共同研究の実施状況

	平成18年度
(1) 国際共同研究	0件
(2) 国内共同研究	1件
(3) 学内共同研究	0件

(1) 国際共同研究

1)

(2) 国内共同研究

津田雅夫（岐阜大），別所良美（名市大）ほか 「昭和」の思想

(3) 学内共同研究

10 産学共同研究

	平成18年度
産学共同研究	0件

1.

11 受賞

- (1) 国際的な授賞
- (2) 外国からの授与
- (3) 国内での受賞

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. 科研費研究

社会規範の生成という視点から社会哲学と宗教論にかかわる原理的考察を積み重ねてきた。考察は以下の三つの方面で展開された。(1) 社会および国家と規範との結びつき。プラトンやヘーゲルの国家論とともに、とりわけホッブズの国家論の研究をおこなった(ホッブズに関しては最新の研究知見をふまえつつ、権力・権威と宗教との関係、自由と必然との関係を巡って独自の見解を得た)。また、ヘーゲル以降の展開を考慮してフランス現代思想の一部(ドゥルーズの欲望・資本主義論)をも視野に収めた。(2) 宗教と社会規範との結びつき。ルター以降の宗教論を辿り直しつつとくにフォイエルバッハの宗教論を検討した。またこれと併せて、インドの社会・宗教・文明を考察に組み込む必要を感じ、インドの現地調査を試みた(その報告の一部は『浜松医大ニューズレター』に掲載)。(3) 近代日本人における規範意識・無意識。近代日本の文学・思想(とくに伊藤整、戸坂潤、三木清ほか)を研究し、今日まで「日本人の伝統的な宗教性」として受け継がれている近代日本人の思惟様式とその「教養」の原型を把握した(名古屋哲学研究会・日本思想史部会報告「伊藤整『近代日本人の発想の諸形式』を読む」, 2006.12.9)。以上の三方面の考察を通じて、(生命論に関してすでに得ていた)〈安らぎ〉(自己身体の底点)という条件に加えて、〈済まなさ〉(宗教性・根底的第三者性)、社会的相互評価(水平的第三者性)という二つの第三者性を、社会規範の根本条件として新たに析出した。ここに得られた観点を終末期医療における倫理の場面に適応し、親密な二者関係と社会制度との共通根源を〈臨床的真実〉として探った(唯物論研究協会シンポジウム報告、ならびに、日本哲学会〈共同討議Ⅱ：生死とケアの哲学〉論文)。

13 この期間中の特筆すべき業績、新技術の開発

1. 国際的に定評のある『生命倫理百科事典』の邦訳・刊行に編集委員の一人として参加した。この出版は日本の医療倫理・生命倫理にとって大きな刺激となっている。

14 研究の独創性、国際性、継続性、応用性

- 1.

15 新聞、雑誌等による報道

- 1.